



Chairman's Column

テーマパーク料金も高騰しています

季節の変わり目、いかがお過ごしでしょうか。GWもあっという間に終わりました。

GWといえばテーマパークなのですが、日本の有名なテーマパークの料金改定に関する記事を目にしました。TDL、USJともに大人一人当たりの入場料が1万円を超え、特定の優先パスに至っては数万円に迫る価格設定になっているとのこと。もちろん、アトラクションの進化やサービスの向上といった背景はあるのですが、その値上げ幅には目を見張るものがあります。ふと数年前の自身のことを思い出しました。2018年にロサンゼルスユニバーサル・スタジオ・ハリウッド（以下、USH）を訪れた際、入場料は一人あたり約100ドルほどでした。エクスプレスパスのような優先入場券に至っては、当時500ドルほどしたと記憶しています。USHにさほど熱もない私はもちろん、ノーマルチケットを選びました。500ドルの優先パスはどんな方が持っているのかと思いきや、ガラガラの中中の通路を悠然と歩いているのは頭にターバンを巻いたアラブのファミリーの方たちでした。

このテーマパークの料金高騰のニュースは、決して他人事ではありません。私たちの生活を取り巻く様々なものが、じわじわと値上がりしているのを実感している方も多いのではないのでしょうか。いわゆる「インフレ」という経済現象です。

インフレとは、一般的に物価が持続的に上昇する状態を指します。その要因は様々ですが、需要が供給を上回る「需要超過型インフレ」や、原材料費や人件費の高騰によって製品やサービスの価格が上昇する「コストプッシュ型インフレ」などが挙げられます。近年の日本のインフレは、複合的な要因が絡み合っていると

考えられます。世界的な原材料価格の高騰に加え、円安の影響で輸入物価が上昇しています。また、人手不足による人件費の上昇も、価格転嫁という形で消費者に影響を与えています。さらに今回のトランプ関税によって先行きの不透明感がますますインフレに拍車をかけているのかもしれません。人件費、光熱費、施設の維持費、そして魅力的なコンテンツを維持するための投資など、あらゆるコストが増加していると考えられます。

2018年のロサンゼルスUSHの料金を思い返すと、現在の日本のテーマパークの料金は、当時私が感じた驚きに匹敵するほどになっているのかもしれません。もちろん、海外と日本の経済状況や物価水準を単純に比較することはできません。しかし、テーマパークというエンターテインメントの象徴的な存在の料金が大きく変動していることは、生活におけるインフレの進行を改めて意識させる出来事であると思います。

ASAグループとしては、企業のコスト管理や価格設定、そして家計への影響など、インフレがもたらす様々な側面を注視していく必要があります。とはいえ短期的には以前からお伝えしているように、トランプ関税の影響が大きいので、なんとかこの騒動が静まりますように。

代表取締役会長 松澤 和浩





不動産マーケット情報

カンヌの思い出

今年もフランスのカンヌ映画祭の話題がメディアを賑わせています。言わずと知れた世界三大映画祭の一つで、第二次世界大戦後の1946年に始まり、1954年の衣笠貞之助監督の『地獄門』以降、黒澤明、今村昌平、是枝裕和といった日本人監督がパルムドールを受賞してきました。

実は、カンヌ市でカンヌ映画祭よりも経済的に大きなイベントと言われているのが毎年3月に開催される国際不動産見本市“MIPIIM (Marché International des Professionnels de l'Immobilier)”です。海外不動産に詳しい方には有名かもしれません。

私も10年以上前になりますが、当時勤務していた日系不動産会社から派遣されてMIPIIMに参加しました。

当時は、リーマンショックが終わり、日本のインバウンド市場においても、プリンシパルインベスター筆頭のオポチュニスティックな米国系投資銀行が退場し、欧州や中東から年金や保険などの長期でコアな資金が入り始めた時期でした。

私の会社はこれらの新たな投資家とのパートナーシップを模索していたのでした。

パートナーシップの責任者だった私は、事前にMIPIIMから参加予定の投資家リストをもらい片っ端からアポイントメントを取って、4日間の開催期間中ほとんど休みなくドイツ、オランダ、北欧、中東などの投資家数十社と面談を行い、貴重な関係を築きました。



また、隣接したヨットハーバーに係留されている数百隻のクルーザーが参加者のプライベートブースとしてレンタルされ（レンタル料1日数百万円）、中ではドレスを着たモデルたちによってシャンパンが振る舞われていました。夜は夜で、ビーチパーティーを楽しんだり、山沿いにあるミシュランの星付きレストランでフォアグラを食べながら1年物から10年物までのドンペリニオンの飲み比べをして交流を深めたりして、MIPIIMはワインアンドダインの祭典といった側面があることを知りました。

実は、私がたまたま個人的にプロデュースした短編映画が3年前にカンヌ映画祭に入選し、タキシードを着てレッドカーペットを歩いたり、映画関係者のプライベートパーティーに参加したりして映画祭を満喫したのですが、今から思えば、確かにMIPIIMの方が豪華だったような印象があります（笑）

ナレッジマネジメント室 平井 茂



Monthly Topic

ASA GLOBAL行政書士法人 設立
及び事業開始のお知らせ

平素よりASAグループをご支援いただき、誠にありがとうございます。先般、メール等にてご案内いたしました通り、このたび当グループでは「ASA GLOBAL行政書士法人」を設立し、正式に事業を開始いたしました。本ニュースレターでは、改めて法人設立の背景と今後の展望について、皆様に詳しくご紹介いたします。

グローバル化と多様化が進むビジネス環境の中で、迅速かつ的確な法務対応の重要性が高まっています。法務に関するニーズはますます高度化・専門化しており、こうした時代の要請に応えるべく、ASA GLOBAL行政書士法人は、企業法務の最前線で活躍してきた経験豊富な行政書士チームを中心に、スモールスタート支援、入管業務、各種許認可取得、そして適格機関投資家特例業務といった今まで培ってきた実績を基にした分野において、高品質なリーガルサービスを提供いたします。

複雑かつスピードが求められる領域において、実務に即した柔軟な対応力を強みとし、「現場感覚のある提案力」と「クライアントセンタード（お客様を中心としたアドバイザリーネットワークからの支援）」をキーワードに、依頼者に寄り添ったパートナーサービスを展開いたします。

本法人の設立により、ASAグループの提供価値は、単なるコンサルティングにとどまらず、法的手続きの実行力を備えた“トータルサポート体制”へと進化いたします。今後はグループ内外のネットワークと連携し、より多様なビジネスシーンにおいて皆様を支える存在を目指してまいります。

引き続き、ASAグループならびにASA GLOBAL行政書士法人に変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ASA GLOBAL行政書士法人 村田 淳

